

法人企業景気予測調査（令和 4 年 4 ～ 6 月期調査）
結果の概要

1. 貴社の景況

- ◆ 現状（令和 4 年 4 ～ 6 月期）
 - ・「貴社の景況判断」BSI を全産業で見ると、大企業は▲0.9%ポイントとなり、令和 4 年 1 ～ 3 月期以降 2 期連続の「下降」超
 - ・中堅企業、中小企業はいずれも「下降」超
- ◆ 見通し
 - ・大企業は令和 4 年 7 ～ 9 月期に「上昇」超に転じる見通し
 - ・中堅企業は令和 4 年 7 ～ 9 月期に「上昇」超に転じる見通し、中小企業は「下降」超で推移する見通し

[単位：%ポイント]

		令和 4 年 1 ～ 3 月 前回調査	令和 4 年 4 ～ 6 月 現状判断	令和 4 年 7 ～ 9 月 見通し	令和 4 年 10 ～ 12 月 見通し
大企業	全産業	▲ 7.5	(4.7) ▲ 0.9	(6.5) 6.3	6.4
	製造業	▲ 7.6	(5.9) ▲ 9.9	(7.1) 8.2	8.2
	非製造業	▲ 7.4	(4.1) 3.4	(6.3) 5.5	5.6
中堅企業		▲ 9.6	(6.5) ▲ 2.1	(10.9) 6.2	8.1
中小企業		▲ 26.2	(▲ 5.6) ▲ 14.8	(0.9) ▲ 3.3	▲ 1.7

※1 () 書きは前回調査時の見通し。
※2 前四半期と比較しての「上昇」－「下降」社数構成比。

◆ 寄与の大きい業種（大企業）

[単位：％ポイント]

			業種	現状判断	
				前回調査	今回調査
貴社の景況判断 BSI ▲ 0.9	製 造 業 ▲ 9.9	上昇	非鉄金属製造業	(▲ 8.6)	15.9
			金属製品製造業	(▲ 35.4)	2.7
		下降	自動車・同附属品製造業	(▲ 5.8)	▲ 25.4
			化学工業	(▲ 15.4)	▲ 10.2
	非製造業 3.4	上昇	サービス業	(▲ 12.4)	12.6
			運輸業・郵便業	(▲ 36.1)	24.8
		下降	情報通信業	(8.2)	▲ 9.7
			建設業	(11.1)	▲ 18.6

※ 今回調査の「貴社の景況判断（現状判断）」BSI の上昇・下降に寄与した製造業・非製造業別上位 2 業種。

2. 国内の景況

◆ 現状（令和4年4～6月期）

- ・「国内の景況判断」BSIを全産業で見ると、大企業は0.4%ポイントとなり、令和3年10～12月期以来2期ぶりの「上昇」超
- ・中堅企業、中小企業はいずれも「下降」超

◆ 見通し

- ・大企業は「上昇」超で推移する見通し
- ・中堅企業は令和4年10～12月期に「上昇」超に転じる見通し、中小企業は「下降」超で推移する見通し

〔単位：%ポイント〕

		令和4年1～3月 前回調査	令和4年4～6月 現状判断	令和4年7～9月 見通し	令和4年10～12月 見通し
大企業	全産業	▲ 16.3	(9.2) 0.4	(8.5) 3.4	4.4
	製造業	▲ 10.5	(8.3) ▲ 5.6	(6.8) 3.0	4.8
	非製造業	▲ 19.1	(9.6) 3.2	(9.3) 3.6	4.2
中堅企業		▲ 22.5	(8.1) ▲ 5.2	(12.5) ▲ 2.0	4.3
中小企業		▲ 36.6	(▲ 4.0) ▲ 18.4	(3.3) ▲ 15.8	▲ 7.4

※1 () 書きは前回調査時の見通し。

※2 前四半期と比較しての「上昇」－「下降」社数構成比。

3. 雇用

◆ 現状（令和4年6月末）

- ・「従業員数判断」BSIを全産業で見ると、大企業は15.8%ポイントとなり、平成23年9月末以降44期連続の「不足気味」超
- ・中堅企業、中小企業はいずれも「不足気味」超

◆ 見通し

- ・大企業は「不足気味」超で推移する見通し
- ・中堅企業、中小企業はいずれも「不足気味」超で推移する見通し

〔単位：%ポイント〕

		令和4年3月末 前回調査	令和4年6月末 現状判断	令和4年9月末 見通し	令和4年12月末 見通し
大企業	全産業	17.1	(11.8) 15.8	(9.8) 13.2	12.0
	製造業	14.7	(11.2) 11.2	(7.3) 9.9	8.1
	非製造業	18.3	(12.1) 18.0	(11.0) 14.7	13.8
中堅企業		27.9	(22.1) 31.1	(19.1) 27.3	25.1
中小企業		20.5	(17.1) 23.8	(15.2) 21.3	20.6

※1 () 書きは前回調査時の見通し。

※2 四半期末の「不足気味」－「過剰気味」社数構成比。

4. 企業収益

◆ 売上高

- ・令和4年度は、4.3%の増収見込み
- ・業種別にみると、製造業、非製造業ともに増収見込み

◆ 経常利益

- ・令和4年度は、▲0.6%の減益見込み
- ・業種別にみると、製造業は減益見込み、非製造業は増益見込み

〔前年度比増減率、単位：％〕

		全産業	製造業	非製造業
売 上 高	令和4年度	(3.2)	(5.6)	(2.3)
		4.3	7.6	3.0
経 常 利 益	令和4年度	(▲ 0.3)	(1.0)	(▲ 0.8)
		▲ 0.6	▲ 2.4	0.2

※1 「売上高」は金融業、保険業を含まない。

※2 () 書きは前回調査結果。

※3 令和3年度・令和4年度ともに回答のあった法人（売上高7,580社、経常利益8,209社）を基に推計。

◆ 寄与の大きい業種（全規模）

〔前年度比増減率、単位：％〕

			業種	令和4年度通期
売 上 高 4.3 〔金融業、保険業を 含まない〕	製 造 業 7.6	増収	自動車・同附属品製造業	15.5
			化学工業	7.6
		減収	—	—
			—	—
	非製造業 3.0	増収	卸売業	2.7
			サービス業	4.9
		減収	リース業	▲ 2.4
			鉱業、採石業、砂利採取業	▲ 9.3
経 常 利 益 ▲ 0.6	製 造 業 ▲ 2.4	増益	自動車・同附属品製造業	13.9
			業務用機械器具製造業	10.6
		減益	非鉄金属製造業	▲ 30.9
			その他製造業	▲ 11.7
	非製造業 0.2	増益	運輸業、郵便業	59.5
			小売業	3.2
		減益	情報通信業	▲ 4.1
			建設業	▲ 6.0

※1 今回調査の「売上高」の増収・減収、「経常利益」の増益・減益に寄与した製造業・非製造業別上位2業種。

※2 「*」は黒字転化、「-*」は赤字転化を示す。

5. 設備投資

◆ 生産・販売などのための設備（ＢＳＩ）

- ・令和４年６月末の「生産・販売などのための設備判断」ＢＳＩをみると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「不足」超
- ・先行きをみると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「不足」超で推移する見通し

〔単位：％ポイント〕

	令和４年３月末 前回調査	令和４年６月末 現状判断	令和４年９月末 見通し	令和４年１２月末 見通し
大企業	2.0	(2.4) 2.6	(1.7) 2.0	1.9
中堅企業	4.4	(4.0) 6.6	(3.9) 5.5	4.4
中小企業	6.7	(5.8) 11.4	(4.6) 9.9	6.9

※１（ ）書きは前回調査時の見通し。

※２ 四半期末の「不足」－「過大」社数構成比。

◆ 設備投資額（ソフトウェア投資額を含む、土地購入額を除く）

- ・令和４年度は、16.0％の増加見込み
- ・業種別にみると、製造業、非製造業ともに増加見込み

〔前年度比増減率、単位：％〕

		全産業	製造業	非製造業
設備投資	令和４年度	(8.2) 16.0	(20.1) 26.4	(2.2) 11.2

※１（ ）書きは前回調査結果。

※２ 令和３年度・令和４年度ともに回答のあった法人（8,213社）を基に推計。

※３ 法人企業景気予測調査では、有形固定資産及びソフトウェアの新設額を設備投資として扱っている。

◆ 寄与の大きい業種（全規模）

〔前年度比増減率、単位：％〕

			業種	令和４年度通期
設備投資 16.0	製造業 26.4	増加	自動車・同附属品製造業	29.8
			情報通信機械器具製造業	30.7
		減少	石油製品・石炭製品製造業	▲ 12.8
			—	—
	非製造業 11.2	増加	小売業	20.3
			卸売業	21.2
		減少	農林水産業	▲ 55.2
			鉱業、採石業、砂利採取業	▲ 6.8

※ 今回調査の「設備投資」の増加・減少に寄与した製造業・非製造業別上位２業種。

6. 今年度における設備投資のスタンス

- ・設備投資のスタンスを全産業で見ると、大企業は「維持更新」の重要度が最も高く、次いで「省力化合理化」、「情報化への対応」の順に重要度が高い
- ・中堅企業は「維持更新」、中小企業は「生産（販売）能力の拡大」の重要度が最も高い

[回答社数構成比、単位：％]

		1 位		2 位		3 位	
大企業	全産業	維持更新	61.1	省力化合理化	43.3	情報化への対応	42.1
	製造業	維持更新	59.6	生産（販売）能力の拡大	54.0	省力化合理化	47.3
	非製造業	維持更新	61.8	情報化への対応	48.6	省力化合理化	41.3
中堅企業		維持更新	51.3	生産（販売）能力の拡大	44.9	製（商）品・サービスの質的向上	44.7
中小企業		生産（販売）能力の拡大	54.2	製（商）品・サービスの質的向上	50.3	維持更新	49.5

※ 10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

7. 今年度における資金調達方法

- ・資金調達方法を全産業で見ると、大企業は「内部資金」の重要度が最も高く、次いで「民間金融機関」、「リース」の順に重要度が高い
- ・中堅企業は「内部資金」、中小企業は「民間金融機関」の重要度が最も高い

[回答社数構成比、単位：％]

		1 位		2 位		3 位	
大企業	全産業	内部資金	69.3	民間金融機関	68.2	リース	14.6
	製造業	内部資金	70.7	民間金融機関	70.1	リース	14.0
	非製造業	内部資金	68.5	民間金融機関	67.1	リース	14.9
中堅企業		内部資金	65.5	民間金融機関	60.5	公的機関	22.1
中小企業		民間金融機関	72.9	内部資金	62.2	公的機関	45.6

※1 10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

※2 金融業、保険業を含まない。

参 考

◆ 調査の概要

- ・本調査は、経済活動の主要部分を占める企業活動を把握することにより、経済の現状及び今後の見通しに関する基礎資料を得るため、四半期毎に実施している統計調査である
- ・調査時点 令和4年5月15日
- ・調査対象期間 判断項目：令和4年4～6月期及び6月末見込み、令和4年7～9月期及び9月末見通し、令和4年10～12月期及び12月末見通し
計数項目：令和4年度実績見込み、設備投資（四半期）のみ令和4年4～6月期実績見込み

◆ 調査対象企業の範囲及び回収率

(単位：社)

		全 規 模	大 企 業	中 堅 企 業	中 小 企 業
全 産 業	母集団法人数	911,098	5,762	28,714	876,622
	標本法人数	14,518	4,508	4,128	5,882
	回答法人数	11,013	3,809	2,995	4,209
	回収率(%)	75.9	84.5	72.6	71.6
製 造 業	母集団法人数	148,223	1,860	6,181	140,182
	標本法人数	4,333	1,492	1,053	1,788
	回答法人数	3,553	1,309	888	1,356
	回収率(%)	82.0	87.7	84.3	75.8
非 製 造 業	母集団法人数	762,875	3,902	22,533	736,440
	標本法人数	10,185	3,016	3,075	4,094
	回答法人数	7,460	2,500	2,107	2,853
	回収率(%)	73.2	82.9	68.5	69.7

- ※1 本調査は、資本金（資本金、出資金又は基金）が1千万円以上の法人を対象としている。
ただし、「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」は資本金1億円以上の法人のみを対象としている。
- ※2 本調査において、「大企業」とは資本金10億円以上の企業を、「中堅企業」とは資本金1億円以上10億円未満の企業を、「中小企業」とは資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

◆ B S I (Business Survey Index) の計算方法

例) 「貴社の景況」の場合

前期と比べて … 「上昇」と回答した企業の構成比 : 40.0%
「不変」と回答した企業の構成比 : 25.0%
「下降」と回答した企業の構成比 : 30.0%
「不明」と回答した企業の構成比 : 5.0%

B S I = 「上昇」と回答した企業の構成比 (40.0%) - 「下降」と回答した企業の構成比 (30.0%)
= 10.0ポイント

◆ 次回公表予定（令和4年7～9月期分）

令和4年9月13日（火）

※公表予定日は変更することがあります

連絡・問合せ先

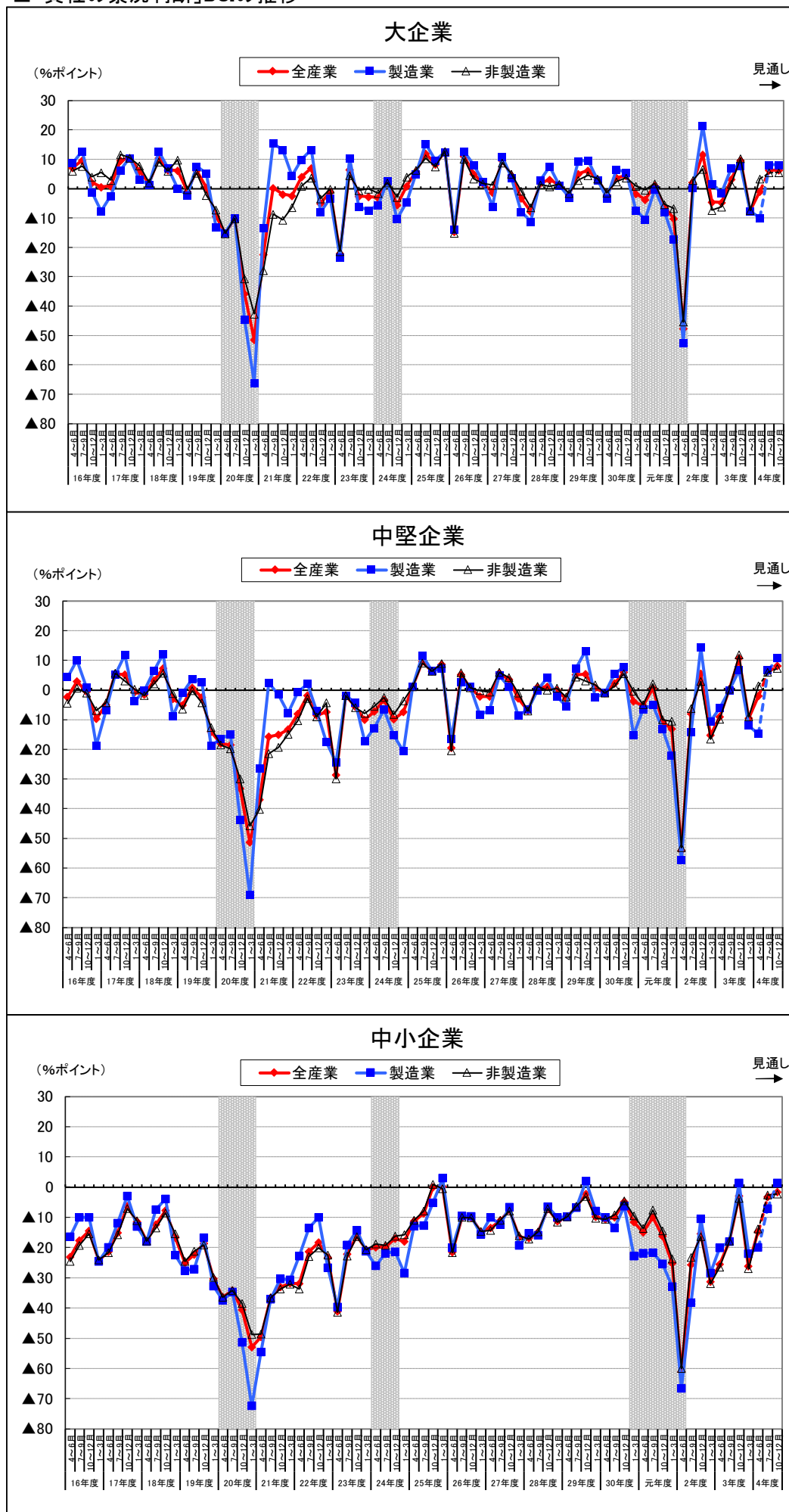
内閣府経済社会総合研究所景気統計部 Tel.03-6257-1630 (タ`イ`リン)

内閣府経済社会総合研究所ホームページアドレス <https://www.esri.cao.go.jp/index.html>

財務省財務総合政策研究所調査統計部 Tel.03-3581-4111 (内線) 5327, 5163

財務省財務総合政策研究所ホームページアドレス <https://www.mof.go.jp/pri/index.htm>

■「貴社の景況判断」BSIの推移

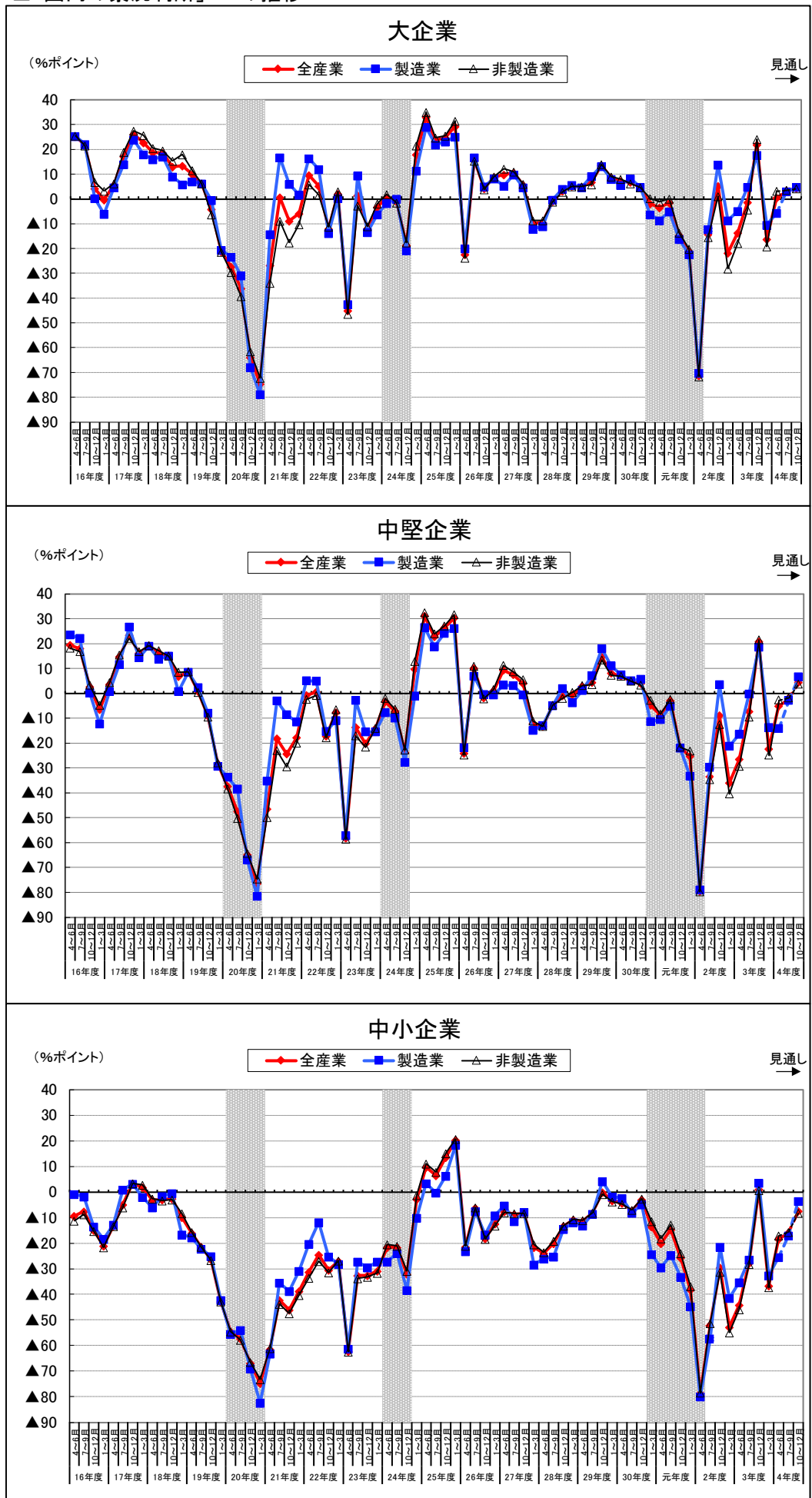


(注)令和4年4-6月期までの数値は、各調査期における現状判断。

令和4年7-9月期及び令和4年10-12月期の数値は、令和4年4-6月期調査時の見通し。

シャドー部分は景気後退期を示す。ただし、平成30年10-12月期は暫定の山、令和2年4-6月期は暫定の谷。

■「国内の景況判断」BSIの推移

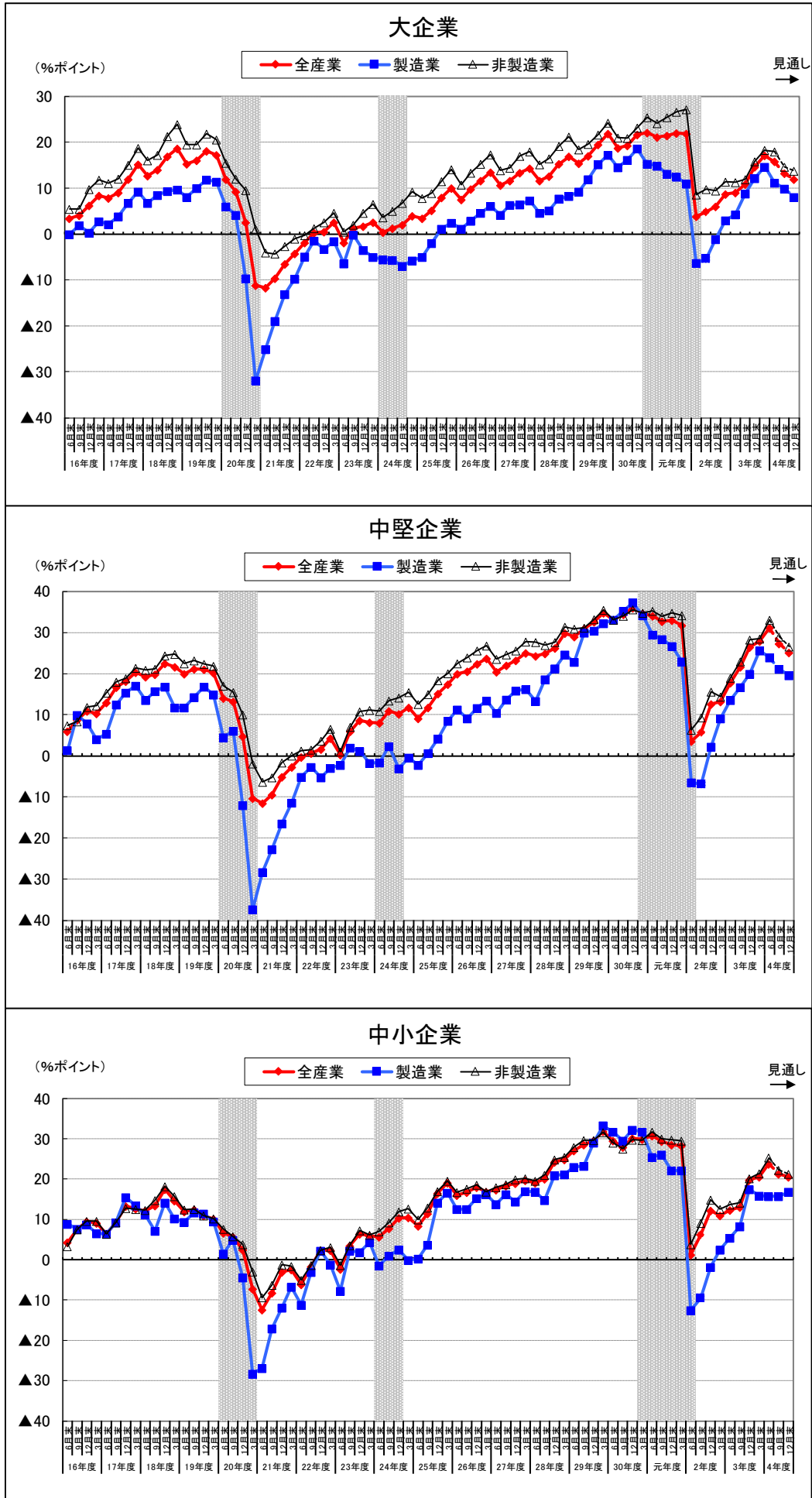


(注)令和4年4-6月期までの数値は、各調査期における現状判断。

令和4年7-9月期及び令和4年10-12月期の数値は、令和4年4-6月期調査時の見通し。

シャドー部分は景気後退期を示す。ただし、平成30年10-12月期は暫定の山、令和2年4-6月期は暫定の谷。

■「従業員数判断」BSIの推移



(注)令和4年6月末までの数値は、各調査期における現状判断。

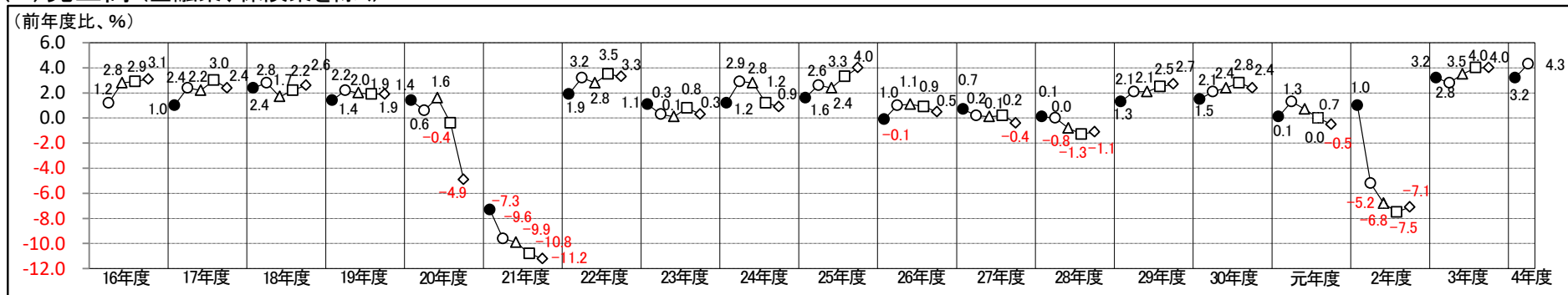
令和4年9月末及び令和4年12月末の数値は、令和4年4-6月期調査時の見通し。

シャドー部分は景気後退期を示す。ただし、平成30年10-12月期は暫定の山、令和2年4-6月期は暫定の谷。

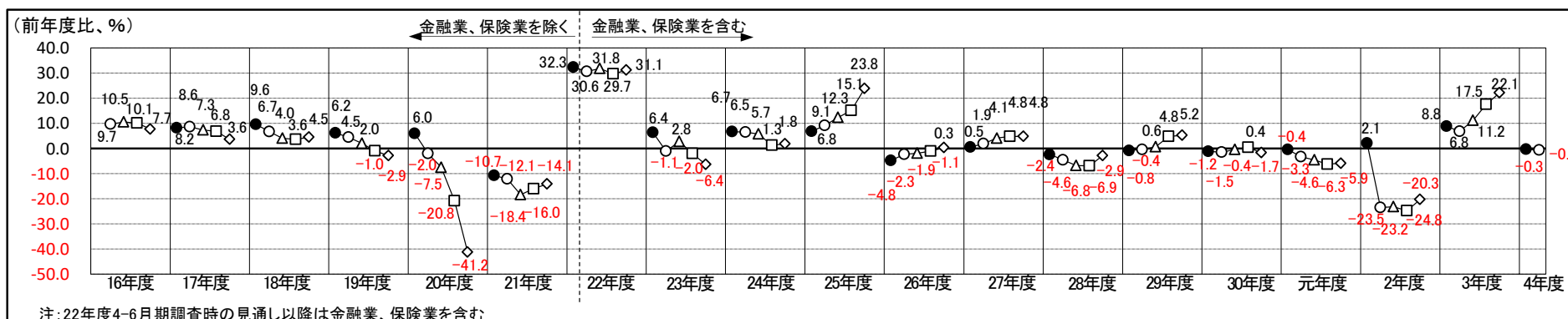
各調査時期における計数の年度見通しの推移(全規模・全産業)

●:1-3月期調査時の翌年度の見通し
○:4-6月期調査時の当年度の見込み
△:7-9月期調査時の当年度の見込み
□:10-12月期調査時の当年度の見込み
◇:1-3月期調査時の当年度の見込み

(1) 売上高(金融業、保険業を除く)



(2) 経常利益



(3) 設備投資(ソフトウェア投資額を含む、土地購入額を除く)

